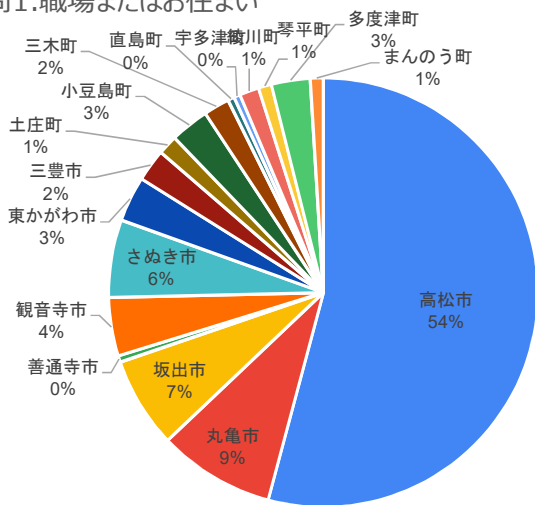


香川県委託「他法他制度の知識習得及び実践応用研修」アンケート集計
「介護支援専門員に求められる虐待対応と権利擁護について」

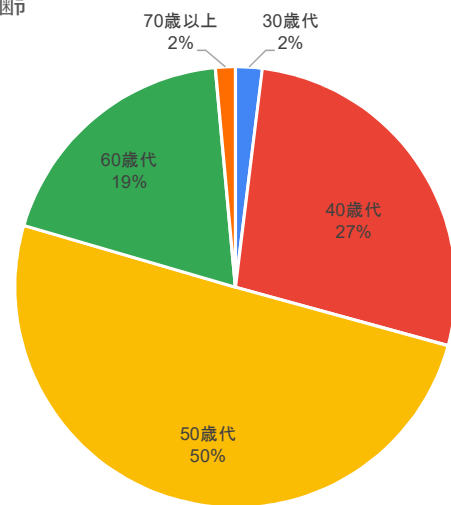
【回答率: 84.0%(n=205)】

問1.職場またはお住まい

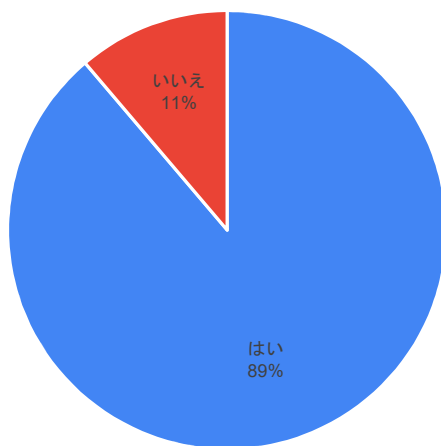


※ 0%=1名

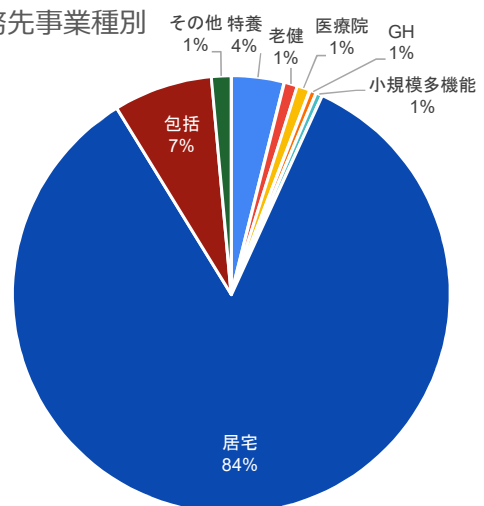
問2.年齢



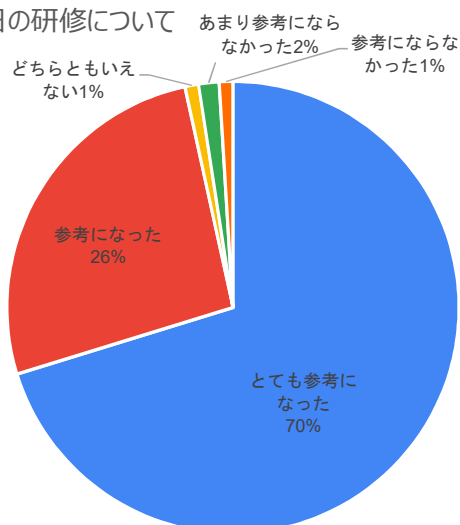
問3.主任介護支援専門員ですか



問4.勤務先事業種別



問5.今日の研修について

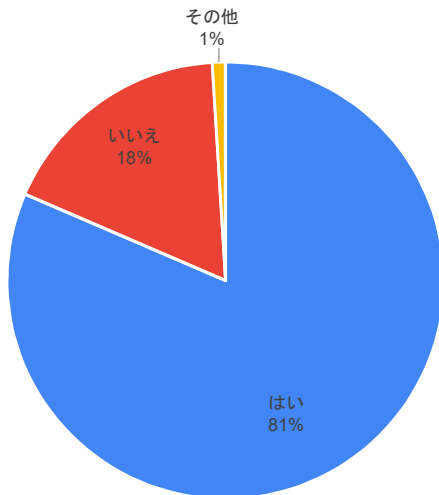


問6. 今日の研修で参考になることはありましたか。またそれはどのようなことですか

- ・ 高齢者虐待の介護支援専門員としての役割(立ち位置)について、改めて認識をした。
- ・ ケアマネが虐待発見の重要な役割であること
- ・ ケアマネジャーとして必要なのは、まずは情報の整理をしっかり行うことが大切。
- ・ エコマップを使用しての情報共有、可視化。状況の理解がしやすくなり、関係性や課題、強みなどがみえてくるので、対策をみつけやすくなると感じた。
- ・ どうしても課題にばかり注目しがちになるが、その中でも強みはあるのかにも着目していきたい
- ・ いろんな視点で事実確認することの大切さや相談することの意味意図をもって動くことの大切さを改めて感じました。
- ・ 問題をみんなで共有するツールを作成する大切さを学びました。
- ・ 話し合いの大切さがわかった。
- ・ ささいなケースであっても事業所内で相談共有できるような体制づくりをできればと思う。
- ・ 虐待が起こる背景を考えて、チームで対応すること(1人では動かない、抱え込まない)
- ・ 実際に虐待を目撃したとしても家族との関係を考えるので、なかなか声を上げるのは難しいと思う。
- ・ 周囲に相談するタイミングが難しいと思っていましたが、違和感を覚えた時点で、包括に相談したらいいことが分かりました。
- ・ 虐待かどうかはケアマネが判断するのではなく、包括に相談し情報を確認してから行政の方で判断が下る。ケアマネだけで虐待と判断してはいけない。
- ・ 市町村の法的責任に基づき、虐待の有無を判断する。この部分が心強い。
- ・ 『虐待の有無は市町村が判断』というところに、自分自身のプレッシャーが少し和らいだ気がする。
- ・ 「虐待と思われる」を考えさせられた。疑いを疑いにはしない対応と支援を考える。・ 推測で物事を決めつけない。
- ・ 虐待の時の対応の仕方、包括との連携の仕方・ 日頃からの気づきや連携の大切さを感じた
- ・ その場限りではなく、定期的に状況を確認しなければならない
- ・ 高齢者虐待対応の目的は、①虐待の解消②高齢者が安心して生活を送るための環境を整えること。
- ・ 虐待の範囲が確認できたこと・ 虐待の定義
- ・ 本人から『虐待されている』と言われるケースでも、実際は認知症の進行であったりするので、しっかり関わり見極めること。
- ・ 被虐待者本人からの相談が極端に少なく、自分から助けを求められない、ということ。
- ・ 早期発見、早期対応の重要性・ 予防につなげるために、かかわる目を増やす。
- ・ 虐待の小さな芽に気づけるよう、日頃の様子、介護者の変化、居宅内の様子が違うなど、“変化”に気づき、寄り添える対応を図っていきたい。
- ・ 虐待などの芽を早期に発見し予防につながるように、利用者や養護者のストレスや不安、負担なことを聞き取り解決するスキルが必要である。
- ・ 養護者(虐待をしている側)の支援もしていくことで全体の解決を行う必要がある。
- ・ 高齢者虐待防止法、養護者の支援も行うとお聞き出来たことがよかった。
- ・ 虐待を受けた人、された人、双方に支援が必要ということ。
- ・ 適切な対応をすることで被虐待者だけでなく加害者側の権利擁護に繋がる場合もあるということ
- ・ 虐待時の成年後見制度の利用について
- ・ 他のケアマネさんとグループワークを行い、虐待対応の色々な考え方(視点)を知ることができた。新たな発見につながった。
- ・ グループワークで経験した内容が聞けた
- ・ 小さな気づきをどう扱うか、など他のケアマネジャーと意見交換でき、有意義な時間になりました。
- ・ グループワークを通して理解しやすかった。
- ・ グループワークでは想像していたよりは虐待事案に取り組んでいる方が少ないと思いました。
- ・ 講師からの知らなかった情報もあり参考になり有意義な研修だった。
- ・ より実践に即した内容で良かった。
- ・ 虐待に関する研修をいくつか受けてきましたが、実際にケアマネとしての心構え、すべきこと等、いちケアマネとしても大変勉強になりましたし、管理者の立場としても、どのような視点で、どのような事に注意して指導するのも勉強になりました。
- ・ 自身の知識向上はもちろん、事業所内でパイプへの助言を行う方法が勉強できたこと。
- ・ 管理者として他のケアマネさんが困っていないか日ごろから連絡会や検討会を活用し虐待の可能性のあるケースの発見に努めたい。
- ・ 自分の権利擁護意識の向上の機会になった
- ・ 高齢者虐待は、決して他人事ではありません。誰もが被害者にも加害者にもなりうる問題であることを認識し、高齢者の尊厳と権利を守るために早期発見・早期対応が重要だと思いました。

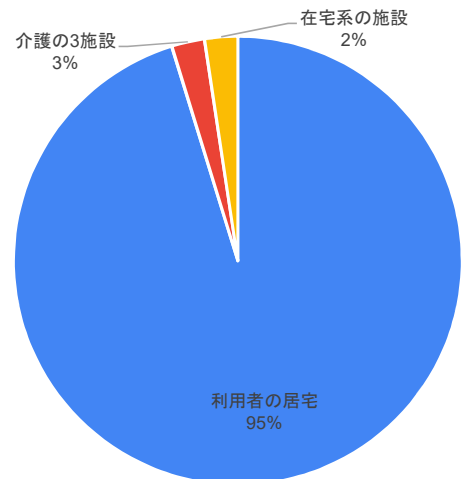


問7.今まで虐待が疑われるケースはありましたか



問8.問7ではいと答えた方へ、

その事象が発生していた場所はどこですか



問9. 問7ではいと答えた方へ、そのときにどのような対応をしましたか

- ・ 上司や職場内で相談し、対応方法の検討
- ・ 包括や基幹支援センター、行政(保険者)、警察に連絡、相談、連携、協働
- ・ 包括内、町として協議
- ・ 障害サービスの相談員に相談し、障害福祉課に相談した。
- ・ 関係者で集まり、会を開催(本人、家族参加)
- ・ 主治医と連携を図り、別の病院へ入院させてもらった
- ・ 分断させた
- ・ 虐待の自覚がなく、介護力の限界と感じ、ショートロングに移行しました。
- ・ 看過
- ・ 通報
- ・ 事実確認
- ・ サービス調整(プランの変更)
- ・ 一人に対応しました。上手いきました。
- ・ 特に対応は出来なかった。
- ・ 家族に直接、行っている行為は虐待になると伝えた。
- ・ 病院へ避難
- ・ 措置による入所となった
- ・ 家族と相談しショート利用した
- ・ 通報と事実確認、ご利用者の情報提供

(具体的内容)

- ・ 包括、警察等と連携して対応した。虐待は、一度で解決しないため、継続的に連携した。
- ・ 関わっていた訪問看護、デイケアなどの事業所のスタッフともよく相談、検討した上で地域包括支援センターに相談
- ・ できる限り詳しい事実を明確にして書面に書き出し、ご家族様と一緒に、包括に相談をしました。
- ①包括に報告②サービス事業所とも連携 事実確認③虐待と決めつけずに本人を取り巻く人々に目守りを依頼④サービス担当者会議の時に、利用者のことを事業所は連携して見守りしていることを説明し、介護をしている家族をねぎらった。⑤ ②③④の経過を包括に報告
- ケアマネジャーが養護者に対して、虐待が疑われる場合には行政への報告義務があることを伝え、さらに精神的なサポートを行った結果、状況が改善されました。
- ・ 虐待認定し、サービス調整した上で、本人と養護者双方との信頼関係構築につとめた。
- ・ 主治医、利用者、長男と虐待が疑われることの解決に向けての相談を重ねた。
- ・ 介護者の負担を減らすようにサービス追加し、介護者とはなれる時間を作り、同居していない家族の協力も得た。
- ・ 在宅サービスを利用し、家の中に第三者が入る様にした。
- ・ 同居の長男にネグレクトの疑いがあったが、長男と話し合いができる雰囲気ではなかった。別居の三男が最初のキーパーソンであったため連絡をとって状況確認を依頼した。三男は長男との関係性が悪かったため、三男が次男に相談して支援をつなぐことができた。
- ・ 経済的なことだったため社協の金銭管理を依頼し解決につながった。
- ・ 家族と話をしたところ、本人が興奮して自分で車椅子の肘掛けに腕を叩きつけてできた打撲痕とわかった。(虐待ではなかった)

問10. 事業所として、虐待を見つけたときはどのように対応しますか

- ・ 本人の状態、事実確認等、情報収集、整理、把握、共有 → 記録に残す
- ・ 当事者に聞き取り、状況に応じて行政に相談する。
- ・ 上司に連絡(報告)、包括や役所、専門機関へ相談、つなぐ
- ・ まず、事業所、チームで話し合うことから始めまる。一人で考えない、抱え込まない。
- ・ 少しでも「おかしいな」と思ったら、しっかりチームで連携して対応する
- ・ 個人でなく事業所として対応する
- ・ ケース会議、カンファレンス、検討会、ケア会議 の開催
- ・ 養護者に対する支援も行う。 ・ 双方の確認を取る。
- ・ 場合によっては、通報も考える
- ・ 主任介護支援専門員及び管理者と2名体制で訪問した ・ 1人で訪問せず、必ず2名で対応。
- ・ 担当のケアマネが 悩んだり追いつめられたりしないように常に状況を確認しながら対応
- ・ 研修を開く

※ごく一部のご意見・ご感想等をご紹介しました。その他、たくさんご記入いただきありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。

たくさんのご参加
ありがとうございました。



1階席の皆さまはもちろん、2階席の皆さまも熱心にグループワークに取り組んでおられました。

